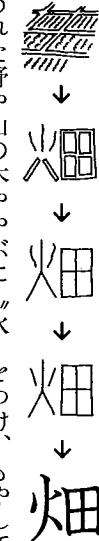


畑

三年
画数 9
筆順 ハ 火 畑 畑
フン はた・はたけ

成り立ち



あれた野や山の木ややぶに「火」をつけ、もやして作った『はたけ』のことをあらわした字です。

中国では、さくもつを作るところはすべて『田』といいましたが、わが国では、米を作るところを『た』といつて『田』の字でこれをあらわし、ほかのさくもつを作るところは『はたけ』といつてくべつしました。しかし中国には『はたけ』をあらわす字がないので、『火』と『田』とを組み合わせて『はたけ』をあらわしました。

わが国で作った字ですから、音はありません。

〔畠という字もある。田より色が白っぽいという意味で作られた字である。〕

発

三年
画数 9
筆順 ハン
クン
オノ
ハツ
ベツ
ホツ
発

成り立ち



足のうらの形をあらわした『止』と『土』とを左右にならべた形の『火』と、出発点をしめすせん『一』と、『分かれる』いみをあらわした『儿』とを組み合わせて作った字です。『出発点にそろえた左右の足が分かれる』といふいみで『歩き始める』ことであらわしたものです。

『火』の、左右にならんだ『止』と『土』とを、分けた上下にならべかえると『歩』(224)と『火』になりますから、「歩き始める」といういみがよくわかるとおもいます。

〔本字は『發』で、『弓』と、草を足で踏みにじる意の『發』との会意・形声字で、「人を殺すべく弓を放つ」ことを表した字である。『發射』すること。〕

使い方

三九六

▽ 夏休みにいなかのおじいちゃんの家に行きました。広いお花畠や、野菜畠があつて、毎日、お花をつんだり野菜をとつたりして、お手つだいをしました。

▽ 花子さんのお父さんは、うちのお父さんと同じ会社でしごとをしていますが、畠違いで工場づとめです。

熟語例

▽ 夏休みにいなかのおじいちゃんの家に行きました。広いお花畠や、野菜畠があつて、毎日、お花をつんだり野菜をとつたりして、お手つだいをしました。

▽ 野菜畠 (野菜をさいばいする畠)

▽ 畠違い (しごとする中みが違つてていること。畠は、その土地にできしたものを見ればいしますので、野菜畠、麦畠、桑畠、茶畠など、さいばいされるものがきまっています。それが人のしごとのばあいとよくていています)

ので、畠にたとえられるわけです。)

▽ 桑畠 (桑がうえられてある畠。『桑原』ともいいます。中国では『桑田』といいました。)

▽ 焼き畠 (あれた野や山の木ややぶを火で焼きはらつて作つた畠のこと。)

使い方

三九七

▽ 朝、九時半に東京えきを出発して、十二時半には、大阪につきました。

▽ 発車。まぎわの電車にとびのつたら、すぐにドアがしまつてしましました。もう少しで、のりおくれるところでした。

熟語例

三九八

▽ 出発 (あるところを目ざして、でかけること。)

▽ 発車 (電車や汽車やバスなどが、出発すること。)

▽ 発射 (矢や、てつぱうのたまをうつこと。「発射した矢がそれで、まとをはずれた」などというふうに、つかいます。)

▽ 先発 (ほかの人たちより先に出発すること。はんたいは『後発』です。「先発」たちは、わたしたちより三十分早く出発したなどといふうに、つかいます。)

▽ 発達 (せいやうして、前よりすぐれたものになること。「交通さんが発達したので、遠いところへもはやく行けるようになつた」など)

三九七